



令和 5 年 8 月 25 日 (金)

2. 目標を立てる

学習を続けるには短期的・中期的・長期的な目標があるとよいと思います。そんな目標をもちやすくするためには、いくつかの決まりごとをイメージするとよいと思います。…といっても、これらは特に新しいことではありません。今現在、6 年生がやっていることなので、これも「再確認」みたいなものですね。

■ 漢字の学習

漢字の学習では確認テストを実施します。どちらのクラスも共通して行なうのは次のものです。

	区分	出題範囲	実施予定
1	「あかねこテスト」	その週の番号の漢字	毎週金曜日
2	単元テスト	その単元内の漢字	単元終了後
3	まとめテスト	学習したところまで	学期に 2 回
4	その他	学級内での裁量	

■ 単元テスト

国語・算数・理科・社会などの教科では、どの教科でも単元テストが行われて、学習の習熟度を試すことができます。単元テストでは大きく分けて「知識・技能」を試すものと、「思考・判断・表現」の力を試すものに分かれます。例えば、算数の「ドリル」や「スキル」を積み重ねていくという宿題の目標は「知識・技能」の定着を図り、その「知識・技能」を使いこなして「思考・判断・表現」の力をつけていくというようにすることができます。

■ 自己表現をする

音楽・図工・体育・家庭科だけでなく、国語・算数・理科・社会などの教科でも自己表現はとても大切です。これまでもおこなってきた、子どもたちにもなじみのある自己表現の一例を紹介します。

教科	自己表現の例
国語	- 自分の思いや考えを書いて表現する。(日記 エッセイ 論説 物語 など) - 読んだり聞いたりしたことから自分の考えをもつ。 - 自分の思いや考えが相手に伝わるように筋道立てて話す。 - 読みとった物語の情景を相手に伝わるように朗読する。
算数	- 既習の材料を使って問題を作成する。 - ちょっと難しい問題にチャレンジし、その考え方を説明する。
社会	- 一つの時代の移り変わりを真っ白な紙にまとめる。 「なぜ？」という問いをもち、既習事項から解釈してまとめる。
理科	- 一つの事象を真っ白な紙にまとめる。 - 日常的な疑問から出発して調べ、考察する。
共通	「マインドマップ」を作成する。

このように、「漢字の学習」はすべての基礎、「単元テスト」は「知識・技能」を活用するための準備、「自己表現」は学んだことの活用、というように、大きく分けて 3 つのカテゴリーから自分の目標をもっていくとよさそうです。

3. 計画する

さて、ここまでこの話題にお付き合いくださった皆さまの中には「あれ？こういうことだったら、今までの宿題でいいじゃん。」「何を変える必要があるの？」なんていう思いをもたれている方々もいらっしゃるかもしれません。もしかしたら、子どもたちもそう思うかもしれません。

もしそうなら、それでOKです。真っ白な計画用紙に、自分の考えで「今と同じような宿題をやろう」と決めればいいです。例えば「計算ドリル」のページを決めるのに、今までは担任（または連絡係）がおこなっていたものを、自分で決めるところに「自主性」があると考えます。

逆に「宿題が自由なら、量を減らせるかと思っていたのに～」と考えていた子たちがいたら、ゴメンナサイね。残念でした（笑）！これからそれぞれにプランニングをしていきますが、だいたい「今やっている量」くらいは計画の中に盛り込んでもらおうと考えております。「あかねこ」「漢字の学習」「計算ドリル」「計算スキル」という購入済みの問題集も使わなければもったいないですからね。よくできたテキストだと思いますよ。というわけで、一応の決め事です。

お約束（決めごと）

- 漢字：「漢字の学習」も活用し、「あかねこテスト」、単元末のテスト、「漢字まとめ 50 問テスト」を目標の一つとして学習をおこなう。漢字ノートも自主的に活用する。
※「漢字まとめ 50 問テスト」については、がんばるとまた何かいいことがあるかも（笑）！
- 算数：「計算ドリル」「計算スキル」は 2 学期終了時に全てやりきってしまうこと。

また、目標とプラン、プランと学習内容、目標と学習内容などをみながら、担任がアドバイスをおこなっていきたいと考えます。つまり、あからさまに「楽しもう」というノートを見たら「この字の乱雑さで、この量で、あなたの目標は達成されますか？」とお小言もついてくるということです（笑）。まじめに言えば一人一人のプランに対して一緒に考え、いっしょにふり返っていき、必要に応じて指導を入れるということです。そういう意味では今までの宿題と変わりはありません。大きく変わるのは宿題の出し手が「教師」ではなく「自分」であるという点です。

もちろん、これまでよりも個々の能力や「なりたい自分」にあわせて「量」や「質」「内容」の調整は可能になります。子どもたちがこのプランをうまく使いこなせるように支援していけたらいいと思いますし、子どもたちが主体的にみんなで力を合わせて、よりよい学習の選択肢が増えるような姿を目指したいと思います。

さて、すでに子どもたちは学校で「自分の考える宿題」の計画を始めています。「号外①」の冒頭でお伝えしましたが、この取り組みの出発点は「中学校になったとき、家庭学習を自分でつくることができる」ための「ヒント」という位置づけです。その第一歩目として「今ある宿題の意味を考える」ところから始めて、「では自分はどうするか」という自己決定によって宿題を作っていくことから始めていこうと思います。最初の計画書を子どもたちがもちかえったら、よくその計画を見てあげてください。何はともあれ、とにかく一度始めてみて、やりながら考えてみたいと思います。お気づきの点などありましたら、ぜひお伝えください。それでは、どうぞよろしくお願いいたします！

